

お台場旧防波堤（2島）における鳥類のモニタリング調査 冬季調査（1月）報告書

2023年2月 一般社団法人お台場海づくり協議会

1. 調査目的

本調査は、お台場海浜公園内防波堤において鳥類の利用状況や、経年変化を把握し、鳥類の生息環境保全について検討するための基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査対象地域

旧防波堤2島及び周辺水域（周辺50m程度）

3. 調査期日等

調査期日等を表1に示す。

表1 調査期日等

調査期日	調査時間	天候
令和5年1月12日（木）	8:00～14:00	晴

4. 調査方法

各調査項目において、倍率8～10倍程度の双眼鏡や倍率20～60倍程度の望遠鏡等を必要に応じて使い分けながら調査を実施した。また、（2）～（4）の調査については、調査精度と定量性を確保するため、2島に調査員を1名ずつ配置し、2島同時に実施した。また、補足調査として（5）の調査を実施した。

（1） 船上センサス

2島の50m程度沖を船舶により定速で周回しながら、2島及び周辺を観察し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。

（2） ラインセンサス

2島の岸沿いを縦断するセンサスルートを設定し、時速1～2km程度の速度で歩きながら目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。センサスルートを各島に1本設定し、観察範囲を片側50m（両側100m）とした。

(3) 定点観察調査

2島の眺望のよい地点に定点を2点ずつ設定し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。観察半径は50m程度、調査時間は各30分間とした。

(4) 任意観察調査

2島の全域を任意に踏査し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。

(5) その他

● 自動撮影カメラによる調査

第5回秋季調査（※調査回の定義については後述する）においてホンダタヌキのため糞が確認されたことから、島内に生息する生き物の情報を補完するため、同回の冬季調査から自動撮影カメラを西島に1台設置した。今回、回収するデータの撮影期間は前回調査から92日間であった（第8回秋季調査～第8回冬季調査）。

● その他の生き物の記録

鳥類調査時に特記すべき生き物が確認された場合は、種名、個体数、行動等を記録した。



写真 1(1) 各調査手法における調査風景



写真 1(2) 各調査手法における調査風景



図 1 調査地点

5. 評価方法

(1) 調査回の定義

各調査結果をとりまとめ、過去の調査と比較をすることで、今回の調査結果を評価した。調査回の定義を表 2 に示す。今回は第 8 回の冬季調査にあたる。

表 2 調査回の定義

調査回	調査時期
第 1 回	平成 27 年夏季～平成 28 年春季
第 2 回	平成 28 年秋季～平成 29 年夏季
第 3 回	平成 29 年秋季～平成 30 年夏季
第 4 回	平成 30 年秋季～令和元年夏季
第 5 回	令和元年秋季～令和 2 年夏季
第 6 回	令和 2 年秋季～令和 3 年夏季
第 7 回	令和 3 年秋季～令和 4 年夏季
第 8 回	令和 4 年秋季～令和 5 年夏季

(2) 重要種の選定根拠

重要種の選定根拠を表 3 に示す。これらのうち、いずれかに該当する種を重要種として記録した。

表 3 重要種の選定根拠

No.	選定資料	カテゴリー
①	「文化財保護法」(昭和 25 年、法律第 214 号)	特天:特別天然記念物 天 :天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年、法律第 75 号)※以下、種の保存法と記す	国内:国内希少野生動植物種 国際:国際希少野生動植物種
③	「環境省レッドリスト 2020 鳥類」(令和 2 年、環境省) ※以下、環境省 RL と記す	EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧 I 類 CR:絶滅危惧 I A 類 EN:絶滅危惧 I B 類 VU:絶滅危惧 II 類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群
④	東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)2020 年版 『東京都レッドリスト(本土部)2020 年版』 (令和 2 年、東京都)※以下、東京都 RL と記す	EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧 I 類 CR:絶滅危惧 I A 類 EN:絶滅危惧 I B 類 VU:絶滅危惧 II 類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群 * :留意種

6. 調査結果

(1) 現地調査結果

鳥類確認種目録を表 4、船上センサス結果を表 5、ラインセンサス結果を表 6、定点観察結果を表 7 に示す。

- 現地調査の結果、9 目 20 科 29 種が確認された (表 4)。
- 確認種の約半数は水域及びその周辺に生息する種として 13 種 (アオサギやユリカモメ、ハクセキレイ等) が確認された。島内では、森林及びその周辺に生息する種として 10 種 (シジュウカラやヒヨドリ、ジョウビタキ等) が確認されたほか、都市部で見られる種として 3 種 (ムクドリ、スズメ及びドバト)、様々な環境で見られる種として 3 種 (キジバト、トビ及びハシブトガラス) が確認された (表 4)。
- 渡り区別にみると、留鳥 (ある地域で一年中見られる種) の確認種数が最も多く、15 種 (キジバトやシジュウカラ、ハクセキレイ等) が確認された。次いで冬鳥 (ある地域で冬に見られる種) が 14 種 (スズガモやセグロカモメ、ツグミ等) 確認された。
- 重要種はホシハジロ、スズガモ、ウミアイサ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、オオバン、イソシギ、トビ、イソヒヨドリ及びホオジロの合計 10 種が確認された (表 4)。島内では、護岸で採餌をするイソシギやイソヒヨドリ、広葉樹にとまるトビ、低木にとまるホオジロ、低茎草地上空で採餌するトビが確認された。島外では、海域で休息するホシハジロやスズガモ、採餌するカンムリカイツブリ、遊泳するホシハジロ、スズガモ、ウミアイサ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ及びオオバンが確認された。島内外では、上空を通過するスズガモやトビが確認された。
- 外来種はドバトが確認された (表 4)。
- 確認個体数の最も多かった種はスズガモであった。本種は、船上センサスにおいて東島で合計 300 個体 (表 5)、ラインセンサスでは両島で合計 55 個体が確認され、優占度は東島で 72%、西島で 18%を占めた (表 6)。定点観察調査では両島で合計 73 個体 (表 7) が確認された。主に海域で遊泳や休息する個体が確認された。
- 比較的確認個体数の多かった種はカワウであった。船上センサスでは両島で合計 118 個体 (表 5)、ラインセンサスでは両島で合計 22 個体が確認され、優占度は東島で 13%、西島で 28%を占めた (表 6)。定点観察調査では両島で合計 60 個体 (表 7) が確認された。主に、落葉広葉樹にとまる個体や飛翔する個体が確認され、東島では巣材運びが確認された。また、両島において東島で 121 箇所、西棟で 24 箇所の営巣が確認され (繁殖への影響を考慮し、遠方からの視認のため概算とする)、抱卵・抱雛する様子や巣内雛 (孵化後 3 週目程度) が確認された。

(2) 過去調査との比較

それぞれの前回調査との比較について、表 8 に確認種、表 9 に船上センサス結果、表 10 にラインセンサス結果、表 11 に定点観察結果、表 12 にこれまでの鳥類確認種目録を示す。

- 第 7 回（前回調査）と第 8 回（今回調査）の確認種数は、第 7 回では東島で 31 種、西島で 28 種、合計 36 種、第 8 回では東島で 20 種、西島で 25 種、合計 29 種であった（表 8）。第 7 回及び第 8 回で確認された共通種は 28 種となり、第 8 回の確認種全体の 9 割を超えたが、第 7 回に比べ確認種数が少ない結果となった。これは、第 7 回の調査で確認されたカモ類が 7 種に対し、第 8 回で 2 種のみと少なかったことが要因であった。
- 第 7 回で確認されず第 8 回で確認された種はホオジロの 1 種であり、第 7 回で確認され第 8 回で確認されなかった種はヒドリガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、ホオジロガモ、ウミネコ、ノスリ及びカワセミの 8 種であった（表 8）。今回、ホオジロは第 5 回以来の記録となり、餌場や休息場として旧防波堤に一時的に飛来したものと考えられる。第 8 回で確認されなかった種のうち、ヒドリガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、ホオジロガモ及びウミネコは、定期的に記録されている種であり、今回は確認されなかったが、今後も記録される可能性がある。カルガモやノスリは、これまでの現地調査において定期的に観察されており、今回の現地調査では確認されなかったが、ノスリは自動撮影カメラにより秋に撮影されており、カルガモも今後確認される可能性がある。カワセミは、これまでも 1 年を通して不定期的かつ低頻度で記録されている種であり、一時的に旧防波堤や周辺海域に飛来する種と考えられ、今回は確認されなかったが、今後も記録される可能性がある。
- 第 7 回より第 8 回で確認個体数が増加した種はトビであった（表 9、10、11）。主に東島の広葉樹にとまり休息する個体や、低茎草地上空から探餌する個体、上空を通過する個体が確認された。カワウの架巢位置より上部の枝にとまり巢内を注視する個体が確認されたことから、カワウの繁殖期に合わせて鳥の島を餌場として利用する個体が増加した可能性があり、今後の個体数の増減に留意する。

(3) その他

自動撮影カメラによる調査及び鳥類調査時に確認されたその他の生き物) の記録を整理した結果、鳥類 4 目 4 科 5 種、哺乳類 1 目 1 科 1 種が確認された。

- 自動撮影カメラの画像を解析した結果、鳥類ではキジバト、カワウ、オオタカ、ノスリ及びハシブトガラスの 5 種、哺乳類ではドブネズミ 1 種が確認された。
- 自動撮影カメラにおいて、11 月 14 日、18 日、28 日に木の枝を銜えるカワウが撮影された。いずれの個体も、林内において巣材を採取していたものと推測される。

- 自動撮影カメラにおいて、11月5日にドブネズミを捕えるオオタカ成鳥が撮影された。また、10月22日、11月7日にオオタカ幼鳥、1月3日にノスリが地面で採食する様子が確認された。林内を餌場として利用していたと推測される。

表 4 鳥類確認種目録

No.	目名	科名	種名	渡り 区分	調査時期		重要種選定基準			
					冬季(1月)		①	②	③	④
					東島	西島				
1	カモ	カモ	ホシハジロ	冬鳥	○	○				VU
2			スズガモ	冬鳥	○	○				*②
3			ウミアイサ	冬鳥	○	○				DD
4	カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ	冬鳥	○	○				*②
5			ハジロカイツブリ	冬鳥	○	○				NT
6	ハト	ハト	キジバト	留鳥		○				
7	カツオドリ	ウ	カワウ	留鳥	○	○				
8	ペリカン	サギ	アオサギ	留鳥	○	○				
9	ツル	クイナ	オオバン	冬鳥	○					CR
10	チドリ	シギ	イノシギ	留鳥	○	○				VU
11		カモメ	ユリカモメ	冬鳥	○	○				
12		セグロカモメ	冬鳥		○					
13	タカ	タカ	トビ	留鳥	○	○				NT
14	スズメ	カラス	ハシブトガラス	留鳥	○	○				
15		シジュウカラ	シジュウカラ	留鳥	○	○				
16		ヒヨドリ	ヒヨドリ	留鳥	○	○				
17		ウグイス	ウグイス	冬鳥		○				
18		メジロ	メジロ	留鳥		○				
19		ムクドリ	ムクドリ	留鳥		○				
20		ヒタキ	シロハラ	冬鳥		○				
21			ツグミ	冬鳥		○				
22			ジョウビタキ	冬鳥	○	○				
23			イノヒヨドリ	冬鳥		○				NT
24		スズメ	スズメ	留鳥	○					
25		セキレイ	ハクセキレイ	留鳥	○	○				
26		アトリ	カワラヒフ	留鳥		○				
27		ホオジロ	ホオジロ	留鳥	○					EN
28			アオジ	冬鳥	○	○				
29	ハト	ハト	ドバト	留鳥	○					
合計	9目	20科	29種	-	20種	25種	0種	0種	0種	10種

注1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第7版」(平成24年、日本鳥学会)に準拠した。

注2. 重要種選定基準は表3に従った。

注3. 重要種選定基準④(東京都RL) *:留意種

*②:人為的な環境配慮により個体群が維持されている。

表 5 船上センサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期		合計 個体数
				冬季(1月)		
				東島	西島	
1	カモ	カモ	スズガモ	300	0	300
2	カツオドリ	ウ	カワウ	59	59	118
3	ペリカン	サギ	アオサギ	3	0	3
4	ツル	クイナ	オオバン	1	0	1
5	チドリ	シギ	イソシギ	1	7	8
6		カモメ	セグロカモメ	0	3	3
7	タカ	タカ	トビ	3	2	5
8	スズメ	カラス	ハシブトガラス	2	3	5
9		ヒヨドリ	ヒヨドリ	2	1	3
10		セキレイ	ハクセキレイ	3	1	4
合計	7 目	10 科	10 種	374	76	450
				9 種	7 種	10 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 6 ラインセンサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期				合計 個体数	
				冬季(1月)					
				L1(東島)		L2(西島)			
				個体数	優占度	個体数	優占度		
1	カモ	カモ	スズガモ	46	72%	9	18%	55	
2			ウミアイサ	0	0%	4	8%	4	
3	カツオドリ	ウ	カワウ	8	13%	14	28%	22	
4	ペリカン	サギ	アオサギ	1	2%	0	0%	1	
5	ツル	クイナ	オオバン	1	2%	0	0%	1	
6	チドリ	シギ	イソシギ	1	2%	2	4%	3	
7	タカ	タカ	トビ	1	2%	4	8%	5	
8	スズメ	カラス	ハシブトガラス	2	3%	1	2%	3	
9		シジュウカラ	シジュウカラ	0	0%	3	6%	3	
10		ヒヨドリ	ヒヨドリ	2	3%	3	6%	5	
11		メジロ	メジロ	0	0%	2	4%	2	
12		ヒタキ	シロハラ	0	0%	1	2%	1	
13			ジョウビタキ	1	2%	1	2%	2	
14			イソヒヨドリ	0	0%	1	2%	1	
15			スズメ	スズメ	1	2%	0	0%	1
16		セキレイ	ハクセキレイ	0	0%	1	2%	1	
17		アトリ	カワラヒワ	0	0%	3	6%	3	
18		ホオジロ	アオジ	0	0%	1	2%	1	
合計		7 目	15 科	18 種	64	100%	50	100%	114
					10 種	15 種	18 種		

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 7 定点観察結果

No.	目名	科名	種名	調査時期								合計 個体 数
				冬季(1月)								
				東島				西島				
				P1		P2		P3		P4		
				個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	
1	カモ	カモ	ホシハジロ	0	0%	5	6%	0	0%	0	0%	5
2			スズガモ	0	0%	61	70%	12	26%	0	0%	73
3			ウミアイサ	0	0%	2	2%	0	0%	0	0%	2
4	カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ	0	0%	2	2%	1	2%	0	0%	3
5			ハジロカイツブリ	0	0%	2	2%	0	0%	0	0%	2
6	カツオドリ	ウ	カワウ	4	25%	6	7%	28	61%	22	58%	60
7	ペリカン	サギ	アオサギ	0	0%	1	1%	0	0%	3	8%	4
8	ツル	クイナ	オオバン	4	25%	1	1%	0	0%	0	0%	5
9	チドリ	シギ	イソシギ	0	0%	1	1%	0	0%	2	5%	3
10		カモメ	ユリカモメ	1	6%	1	1%	0	0%	0	0%	2
11		セグロカモメ	0	0%	0	0%	0	0%	2	5%	2	
12	タカ	タカ	トビ	1	6%	3	3%	1	2%	4	11%	9
13	スズメ	カラス	ハシブトガラス	1	6%	0	0%	2	4%	1	3%	4
14		シジュウカラ	シジュウカラ	2	13%	0	0%	0	0%	2	5%	4
15		ヒヨドリ	ヒヨドリ	2	13%	2	2%	1	2%	1	3%	6
16		ヒタキ	ジョウビタキ	0	0%	0	0%	0	0%	1	3%	1
17		アトリ	カラヒワ	0	0%	0	0%	1	2%	0	0%	1
18		ホオジロ	アオジ	1	6%	0	0%	0	0%	0	0%	1
合計	8 目	14 科	18 種	16	100%	87	100%	46	100%	38	100%	187
				8 種		12 種		7 種		9 種		18 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 8 前回調査結果との比較：確認種

No.	種名	調査時期			
		冬季(1月)		冬季(1月)	
		第7回 (R3~R4)		第8回 (R4~R5)	
		東島	西島	東島	西島
1	ヒドリガモ		○		
2	カルガモ	○			
3	ハシビロガモ	○	○		
4	オナガガモ	○			
5	ホシハジロ		○	○	○
6	スズガモ	○	○	○	○
7	ホオジロガモ	○			
8	ウミアイサ	○		○	○
9	カンムリカイツブリ	○	○	○	○
10	ハジロカイツブリ	○	○	○	○
11	キジバト	○	○		○
12	カワウ	○	○	○	○
13	アオサギ	○	○	○	○
14	オオバン	○	○	○	
15	イソシギ	○	○	○	○
16	ユリカモメ	○	○	○	○
17	ウミネコ	○	○		
18	セグロカモメ	○			○
19	トビ	○	○	○	○
20	ノスリ	○			
21	カワセミ	○			
22	ハシブトガラス	○	○	○	○
23	シジュウカラ	○	○	○	○
24	ヒヨドリ	○	○	○	○
25	ウグイス	○	○		○
26	メジロ	○	○		○
27	ムクドリ	○	○		○
28	シロハラ	○	○		○
29	ツグミ	○			○
30	ジョウビタキ		○	○	○
31	イソヒヨドリ	○	○		○
32	スズメ	○	○	○	
33	ハクセキレイ	○	○	○	○
34	カワラヒワ		○		○
35	ホオジロ			○	
36	アオジ	○	○	○	○
37	ドバト		○	○	
合計	37 種	31 種	28 種	20 種	25 種
		36 種		29 種	

表 9 前回調査との比較：船上センサス結果

No.	種名	調査時期			
		冬季(1月)		冬季(1月)	
		第7回 (R3~R4)		第8回 (R4~R5)	
		東島	西島	東島	西島
1	カルガモ	2	0	0	0
2	スズガモ	252	50	300	0
3	ホオジロガモ	2	0	0	0
4	カンムリカイツブリ	26	0	0	0
5	ハジロカイツブリ	2	22	0	0
6	カワウ	76	52	59	59
7	アオサギ	2	2	3	0
8	オオバン	1	0	1	0
9	イソシギ	1	1	1	7
10	ユリカモメ	3	0	0	0
11	セグロカモメ	0	0	0	3
12	トビ	0	0	3	2
13	ハシブトガラス	3	4	2	3
14	ヒヨドリ	3	6	2	1
15	ハクセキレイ	0	2	3	1
16	アオジ	0	1	0	0
合計個体数		373	140	374	76
合計島別種数		12種	9種	9種	7種
合計種数		14種		10種	

表 10 前回調査との比較：ラインセンサス結果

No.	種名	調査時期							
		冬季(1月)				冬季(1月)			
		第7回(R3~R4)				第8回(R4~R5)			
		L1(東島)		L2(西島)		L1(東島)		L2(西島)	
個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度		
1	スズガモ	0	0%	0	0%	0	0%	9	18%
2	ウミアイサ	0	0%	0	0%	0	0%	4	8%
3	キジバト	0	0%	2	5%	2	5%	0	0%
4	カワウ	111	72%	14	37%	14	37%	14	28%
5	アオサギ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
6	オオバン	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
7	イソシギ	2	1%	0	0%	0	0%	2	4%
8	ユリカモメ	3	2%	1	3%	1	3%	0	0%
9	トビ	0	0%	0	0%	0	0%	4	8%
10	ハシブトガラス	6	4%	2	5%	2	5%	1	2%
11	シジュウカラ	2	1%	7	18%	7	18%	3	6%
12	ヒヨドリ	12	8%	5	13%	5	13%	3	6%
13	ウグイス	2	1%	1	3%	1	3%	0	0%
14	メジロ	2	1%	1	3%	1	3%	2	4%
15	ムクドリ	2	1%	2	5%	2	5%	0	0%
16	シロハラ	1	1%	0	0%	0	0%	1	2%
17	ジョウビタキ	0	0%	1	3%	1	3%	1	2%
18	イソヒヨドリ	0	0%	0	0%	0	0%	1	2%
19	スズメ	7	5%	0	0%	0	0%	0	0%
20	ハクセキレイ	2	1%	0	0%	0	0%	1	2%
21	カワラヒワ	0	0%	1	3%	1	3%	3	6%
22	アオジ	3	2%	1	3%	1	3%	1	2%
合計	22 種	155	100%	38	100%	38	100%	50	100%
		13 種		12 種		12 種		15 種	

表 11 前回調査との比較：定点観察結果

No.	種名	調査時期															
		冬季(1月)								冬季(1月)							
		第7回(R3~R4)								第8回(R4~R5)							
		東島				西島				東島				西島			
		P1		P2		P3		P4		P1		P2		P3		P4	
		個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	ホシハジロ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	5	6%	0	0%	0	0%
2	スズガモ	0	0%	0	0%	200	74%	250	84%	0	0%	61	70%	12	26%	0	0%
3	ウミアイサ	2	3%	4	7%	0	0%	0	0%	0	0%	2	2%	0	0%	0	0%
4	カンムリカイツブリ	0	0%	1	2%	12	4%	8	3%	0	0%	2	2%	1	2%	0	0%
5	ハジロカイツブリ	1	1%	0	0%	0	0%	1	0%	0	0%	2	2%	0	0%	0	0%
6	キジバト	0	0%	1	2%	1	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
7	カワウ	57	72%	32	55%	8	3%	16	5%	4	25%	6	7%	28	61%	22	58%
8	アオサギ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%	0	0%	3	8%
9	オオバン	3	4%	0	0%	0	0%	0	0%	4	25%	1	1%	0	0%	0	0%
10	イソシギ	1	1%	1	2%	1	0%	1	0%	0	0%	1	1%	0	0%	2	5%
11	ユリカモメ	2	3%	7	12%	24	9%	10	3%	1	6%	1	1%	0	0%	0	0%
12	セグロカモメ	2	3%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	5%
13	トビ	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%	1	6%	3	3%	1	2%	4	11%
14	ハシブトガラス	1	1%	4	7%	4	1%	0	0%	1	6%	0	0%	2	4%	1	3%
15	シジュウカラ	0	0%	1	2%	0	0%	2	1%	2	13%	0	0%	0	0%	2	5%
16	ヒヨドリ	3	4%	5	9%	14	5%	6	2%	2	13%	2	2%	1	2%	1	3%
17	ウグイス	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
18	メジロ	0	0%	0	0%	1	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
19	ジョウビタキ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	3%
20	イソヒヨドリ	1	1%	0	0%	0	0%	1	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
21	スズメ	2	3%	0	0%	2	1%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
22	ハクセキレイ	2	3%	1	2%	2	1%	2	1%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
23	カワラヒワ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	2%	0	0%
24	アオジ	0	0%	1	2%	1	0%	0	0%	1	6%	0	0%	0	0%	0	0%
合計	24種	79	100%	58	100%	270	100%	297	100%	16	100%	87	100%	46	100%	38	100%
		14種		11種		12種		10種		8種		12種		7種		9種	

表 12 (1) 鳥類確認種目録 (第 1 回～第 8 回)

No.	種名	調査時期															
		第 1 回 (H27 夏 ～ H28 春)		第 2 回 (H28 秋 ～ H29 夏)		第 3 回 (H29 秋 ～ H30 夏)		第 4 回 (H30 秋 ～ R1 夏)		第 5 回 (R1 秋～ R2 夏)		第 6 回 (R2 秋～ R3 夏)		第 7 回 (R3 秋～ R4 夏)		第 8 回 (R4 秋～ R5 夏)	
		東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島
1	オカヨシガモ				○		○		○								
2	ヒドリガモ									○	○				○		
3	マガモ		○	○	○		○	○	○								
4	カルガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
5	ハシビロガモ												○	○	○		
6	オナガガモ				○	○	○			○				○			
7	コガモ							○						○			
8	ホシハジロ						○	○		○	○	○			○	○	○
9	キンクロハジロ										○						
10	スズガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11	ホオジロガモ													○			
12	ウミアイサ		○					○	○	○			○	○		○	○
13	カンムリカイツブリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
14	ミミカイツブリ			○								○					
15	ハジロカイツブリ	○	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○
16	キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
17	カワウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
18	ゴイサギ					○											
19	ササゴイ		○														
20	アオサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
21	ダイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
22	チュウサギ									○							
23	コサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
24	オオバン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
25	カッコウ科の一種											○					
26	コチドリ	○	○		○	○	○			○	○	○		○	○		
27	ヤマシギ													●			
28	タシギ								○								
29	チュウシャクシギ														○		
30	キアシシギ									○							
31	イソシギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
32	キョウジョシギ					○	○								○		
33	ユリカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
34	ウミネコ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
35	カモメ	○	○			○											
36	セグロカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
37	オオセグロカモメ	○	○	○	○	○	○					○		○	○		
38	コアジサシ	○	○	○	○	○	○		○								
39	ミサゴ	○		○			○		○		○	○					
40	ハチクマ	○															
41	トビ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
42	ハイタカ		○		○					○							

表 12 (2) 鳥類確認種目録 (第 1 回～第 8 回)

No.	種名	調査時期															
		第 1 回 (H27 夏 ～ H28 春)		第 2 回 (H28 秋 ～ H29 夏)		第 3 回 (H29 秋 ～ H30 夏)		第 4 回 (H30 秋 ～ R1 夏)		第 5 回 (R1 秋～ R2 夏)		第 6 回 (R2 秋～ R3 夏)		第 7 回 (R3 秋～ R4 夏)		第 8 回 (R4 秋～ R5 夏)	
		東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島
43	オオタカ	○		○	○	○	○		○		●	○	●		●		○
44	ノスリ		○	○	○	○		○		○		○	○	○	○		○
45	オオコノハズク														●		
46	カワセミ			○			○			○		○		○			
47	チョウゲンボウ		○				○	○									○
48	ハヤブサ			○	○	○	○	○	○						○		
49	モズ			○	○	○	○	○	○	○	○			○			
50	カケス				○												
51	オナガ			○	○	○	○			○							
52	ハシトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
53	ヤマガラ											○					
54	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
55	ヒバリ						○										
56	ツバメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
57	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
58	ウグイス	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○
59	オオムシクイ								○				○				
60	メジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○		○
61	オオヨシキリ			○		○				○	○	○					
62	ムクドリ	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○
63	コムクドリ				○	○											
64	シロハラ	○	○	○	○						●		○	○	○		○
65	アカハラ	○			○			○			○						
66	ツグミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○
67	ジョウビタキ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
68	イソヒヨドリ	○	○		○		○		○		○		○	○	○	○	○
69	キビタキ	○				○											
70	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
71	キセキレイ			○													
72	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
73	セグロセキレイ				○							○					
74	タヒバリ						○				○						
75	カララヒワ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
76	シメ							○				○					
77	ホオジロ	○		○	○			○		○							○
78	アオジ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
79	オオジュリン			○						○							
80	ドバト	○	○					○		○		○	○	○	○		○
合計	80 種	41 種	40 種	44 種	47 種	42 種	45 種	38 種	38 種	44 種	41 種	40 種	38 種	41 種	41 種	26 種	32 種
		47 種		53 種		51 種		47 種		51 種		45 種		48 種		36 種	

注 1. ●:自動撮影カメラのみで確認された種を示す。



ホシハジロ(重要種)



スズガモ(重要種)



ウミアイサ(重要種)



カンムリカイツブリ(重要種)



ハジロカイツブリ(重要種)



カワウ



アオサギ



オオバン(重要種)

写真 2(1) 確認された主な鳥類



イソシギ(重要種)



ユリカモメ



トビ(重要種)



ハシブトガラス



シジュウカラ



ヒヨドリ



メジロ



ジョウビタキ

写真 2(2) 確認された主な鳥類



写真 2(3) 確認された主な鳥類



写真 3(1) 自動撮影カメラで確認された生き物



写真 3(2) 自動撮影カメラで確認された生き物



ドブネズミを捕えるオオタカ成鳥